

**国連、日本の演説拒否 気候野心サミット
脱炭素遅れ、米中印も不在 環境対策で温度差**

2023年9月23日 2:00 [会員限定記事]

【ニューヨーク=佐藤璃子、朝田賢治】気候変動対策をめぐり、グテレス国連事務総長が日本など主要国に厳しい視線を向けている。国連総会に合わせた「気候野心サミット」では、岸田文雄首相の演説が拒否された。温暖化ガスの削減が進んでいないためとみられるが、環境対策の加速を求めるグテレス氏と各国の間で温度差も広がる。（日本経済新聞）

過去の記録を塗り替えまくっている今年の異常気象です。地球の平均気温は過去最高を記録していますが、陸上のみならず海水温も過去最高を記録しているそうです。

改めて確認するまでもなく、各地での森林火災、豪雨の被害は、これまでの想定を遙かに超えています。この事態に国連のグテレス事務総長は、国連総会に合わせて9月20日に開催された「気候野心サミット」で、「人類は地獄の門を開けてしまった」と述べ「課題の大きさに比べて（気候変動への取組は）圧倒的に小さい」と、地球温暖化に対して歴史的な責任を負う主要国へ再度警鐘を鳴らしました。

このサミットには、岸田首相も参加を想定して、演説原稿を用意していたということですが、上記の新聞記事では「拒否された」と報じられています。理由は、日本の気候対策の遅れということですが。「グリーン・トラストメーション」と、スローガンを掲げても、対策が名ばかりで、1.5℃目標達成に貢献しないばかりか、石炭火力温存や原発依存の現行のエネルギー依存を先延ばししようとしていると見抜かれた形だと、環境金融研究機構は手厳しいコメントを寄せています。

「化石賞」という賞をご存じでしょうか。これは、気候変動対策に対して足を引っ張った国に対して与えられる非常に不名誉な賞です。選ぶのは130カ国の1800以上の団体からなるNGOネットワークです。昨年11月に開催され

た COP27 において、日本は受賞国となりました。それも 3 年連続での受賞でした。

【Climate Live Japan】での若者の叫びを思い出します。

「・・・なのに、日本には圧倒的に危機感が足りない。もはや気候「変動」なんてものじゃなくて、一刻の猶予もない気候「危機」なのに。・・・」

化石賞の国に生きる私たちは、やっぱりもっと「危機感」をもたなければいけないのだと思います。そして、その「危機感」を対話と協働と連帯という温かい行動原理でもっともっと広めていかなければいけないと思います。混乱や不安を広げる「危機感」ではなく、皆で力を合わせて乗り越えていく「危機感」として、「もっと関心をもって!」「一緒にやらないか!」と呼びかけ、一步を踏み出していく、そんな子どもたちを育てていきたいですね。